

高盛土・谷状地形盛土のり面・特殊土の詳細点検・耐震性診断・対策手法に関する研究 (H28～R3年度)

研究の背景・目的

- 政府の地震調査委員会は北海道沖で超巨大地震の可能性が今後30年以内に7～40%の確率で発生するとの予測を公表
- 大地震後における被災地への広域的な物資輸送など避難路確保のため経済的な盛土の耐震強化対策が喫緊の課題

研究成果

- 経済的な盛土の耐震補強対策工の評価
 - ・盛土のり尻にふとん籠を設置することにより、レベル2地震動に対して盛土の変形抑制効果が認められた
 - ・ふとん籠の設置位置や設置段数の違い、固結工法を併用した改良形式による盛土の変形抑制効果を動的遠心力载荷試験で検証し、変形抑制効果の高い改良形式を検討中である。

成果の活用

- 『泥炭性軟弱地盤対策工マニュアル』に反映
- 研究で得られた知見に基づき、各開発建設部への技術指導を実施



泥炭地盤上盛土の被災事例（十勝沖地震）



無対策



盛土のり尻にふとん籠を設置（ふとん籠4段）

ふとん籠の有無による動的遠心力载荷模型実験結果